

rise

転んでも起き上がる

DHARURISER PLANNING

▲「ヒーロー」について熱く語る和知健明さん(左)と決めポーズのダルライザー。

「次の世代の勇気しゅりたいたい」

白河の「当地ヒーロー」ダルライザーに聞く

私たちは8月9日、白河市の「ダルライザープランニング」を訪れ、代表の和知健明さん(39)に、「当地ヒーロー「ダルライザー」としての活動について話を聞いた。2015年の映画製作をはじめ、ヒーローショー、グッズ開発など活動の幅は広い。さらに、ヒーローの動きを格闘技を通じて実際に教えていただいた。(ありさ)

「変身」ではなく「着替え」

ダルライザーとは、和知健明さん(39)が演じている等身大のヒーローのことだ。和知さんは「誰でもヒーローになれる」と言う。多くのヒーローは、人間が「超人」に変身して悪を倒す。和知さんは「変身」と言わずに「着替え」と表現している。「ダルライザーは、他のヒーローと違って

「転んでも起き上がる」というテーマを訴え続けている

子供たちをヒーローに

子どもの頃の和知さんは二足歩行ロボットを作りたいという夢をもっていたそうだ。しかし、高2の時から演劇に興味を持ち、芸術系の大学に進学。演劇部に入り、新劇に取り組み、卒業後に白河に戻った。27歳の時にお子さんが誕生。 「この子に何かを残したい」と思ったそうだ。有名な白河ダルマにならなうで「転んでも、立ち上がって前に進もう」という言葉を思いつき、2008年に「ダルライザープランニング」を起業。「常に新しいことをやる」ことを目標

ます。体は大きくならないし、武器を持つてはわけじゃない。普通の人間として、子供たちに勇気を与える存在になろうと思っっています」(伶奈・瑠那)

次は「育成」

「故郷の白河は大好きです。でもシャッター通りができていたりして活気がないな、と感じることもありました。仲間たちと何かしたいな、と話していました」東日本大震災後は「夢」をテーマにした。「夢は内側から湧いてくるものなんです。お客さんも従来通り来てくれました。福島へのイメージを取り払うのに少しは役に立ったかな」

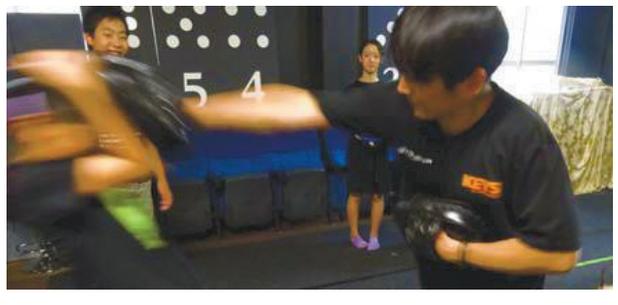
「次の課題は『育成』です。子供たち一人ひとりがヒーローになれる活動を続けていきたいです」(一葉)

白河の風

和知さんの話を聞いて、「ヒーロー」とは人の心を元気にさせる人だと思っただ。和知さんは「普通の人が着替えていられるから誰でもヒーローになれる」と言っていた。だから、人の心を元気にできる人なら、誰でもヒーローになれるのだ

強烈パンチ!

和知さんは、ダルライザー以外にも、取り組んでいることがある。それは、KEYSI(ケイシ)と呼ばれる格闘技だ。他の格闘技にはない変った動きに魅力を感じたのだそう。さまざまな人に「ケイシ」のことを知ってもらおう取り組みを行っている。さらに、日本では知名度が低かった「ケイシ」を自身



私たちが作りました。

左からウオード琴乃さん(中島村立滑津小学校6年)・鈴木一葉君(郡山ザベリオ学園中学校1年)・深谷瑠那さん(市立白河第二小学校6年)・小林綾莉さん(郡山市立高瀬小学校5年)・表ありささん(会津若松ザベリオ学園高校2年)・藤原伶奈さん(市立白河第二中学校1年)